

スクール（学校）ソーシャルワーク実習

[実習] 第4学年 通年 選択 S S W必修 2単位

《担当者名》福間 麻紀 m-fukuma@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

スクールソーシャルワーク実践を実際の支援場面から体験的に学び、スクールソーシャルワークの意義や目的、役割、価値・倫理について理解する。関連する講義や演習で得た理論・技術を実践的に活用する方法を習得する。また、学校や教育機関、関係機関、法律・制度等について、スクールソーシャルワークの支援の枠組みから理解する。

【学修目標】

実習機関における子どもと家庭のニーズ、当該地域の課題を理解する。
実習機関の組織形態、運営を理解する。
地域における社会資源の現状と活用・調整・開発について理解する。
実習機関におけるS S Wの役割、機能、業務内容について理解する。
実習機関におけるケース会議等におけるケース検討の方法を理解する。
他職種との連携とチームアプローチの実際を学ぶ。
子どもと家族に対するコミュニケーションの取り方やアプローチ方法を理解し習得する。
S S Wの支援展開、支援の実際について個別事例から理解する。
個別研究において、ミクロ・メゾ・マクロを考慮したアセスメントと支援計画の作成を行い必要な技術を習得する。
S S Wの社会的使命、価値・倫理についての理解を深める。
S S Wの今後の課題について把握する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	実習 実習施設機関理解	学校組織・学校運営、教育委員会組織を理解する。 学校のデータや取り組み状況により、学校のニーズを把握する。 スクールソーシャルワーカーの組織における役割と業務内容を理解する。 スクールソーシャルワーカーの活動実績から、学校のニーズを把握する。 子ども、教職員、関係機関職員、家族とのコミュニケーションの取り方やアプローチ方法について体験的に習得する。	福間
2	実習 対象者理解 スクールソーシャルワーカーの業務理解	スクールソーシャルワーカーの活動内容を理解する。 子ども、家庭、学校、教職員のニーズを把握する。 子ども、教職員、関係機関職員、家族との援助関係の形成方法について理解する。 教職員や他職種との連携とチームアプローチについて、体験的に理解する。 校内ケース会議やケース検討におけるスクールソーシャルワーカーの役割について、体験的に理解する。 業務記録、支援記録について、記録方法、保管・閲覧方法、活用状況を理解する。	福間
3	実習 スクールソーシャルワーカーの専門性理解	個別事例における、ミクロ・メゾ・マクロの視点を用いた支援展開を理解する。 個別の事例研究に取り組み、アセスメント、プランニング、支援の実施を行う。 用いられている実践技術を体験的に理解し、実際に実施する。 社会福祉士の倫理に基づいた実践を理解する。 子ども、家族への権利擁護を理解し、実施方法を習得する。 市町村の子ども支援体制を含む関係機関との連携とチームアプローチを理解する。	福間

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習施設からの評価表（50％）、実習課題・実習日誌（50％）

【教科書】

使用しない

【参考書】

米川和雄編著「スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト」北大路書房（2010）

日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規（2008）

【学修の準備】

- ・実習計画書において実習に必要な事前学習項目をリスト化し、実習前までに学習する。
- ・実習中に生じた疑問や分からない点については、翌日までに調べ、整理する。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2：福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1：人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3：社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

DP5：多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

【実務経験】

福間麻紀（社会福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

教育委員会でのスクールソーシャルワーカー、スーパーバイザーとしての実務経験を通じて得た知識・技術等を活用し、実践的な実習教育を行う。